

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 まごころ)

事業所番号	0690100276		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	みはたの里		
所在地	山形県山形市美畑町4番35号		
自己評価作成日	令和 元年 11月 5日	開設年月日	平成 23年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 元年 12月 5日	評価結果決定日	令和 元年 12月 20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議時、毎回全員で理念を唱和することで共有し、実践につなげている。又、理念をユニット玄関に掲示し、意識するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りや行事に参加し、交流している。近隣の歯科医院や美容室を利用するようしており、馴染みの関係を築けるよう努めている。地域活動(側溝掃除・雪かき等)を行い、ホーム周辺の環境整備に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の生徒を受け入れている。又、「みはたの里通信」を作成し、ホームの様子を紹介したり、後家族の思い等を発信出来るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回、町内会代表、民生委員、包括職員、入居者代表、家族代表者に参加して頂き、運営推進会議を開催している。活動状況や入居者・スタッフの状況を報告し、意見や要望を取り入れサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で定期的に報告を行ってある。不明な事があれば、その都度担当者の相談・協力を得て、関係が築けるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は常に玄関の鍵を開放し、自由に出入り出来るようにしている。帰宅願望のある方もいらっしゃるため、ユニット玄関のセンサーチャイムを利用したり、常に見守りを行っている。ペットからの転落・居室内での転倒のある方には、御家族と相談してセンサーを設置し対応している。身体拘束についてスタッフ間で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	傷やアザがあった場合どのようにして出来たのか話し合う機会をもつようにしている。又、傷やあざを発見した場合は、身体用の紙にその部位と日付を記入し、スタッフ間で共有出来るように努めている。3か月に一度身体拘束廃止委員会も行って、意識を高める活動も行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会がないので、今後研修等で学ぶ機会がもてるよう検討していく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明を行うようにしている。入居者や家族の不安や疑問を尋ね、理解・納得を図っている。又、利用料金や緊急時の協力要請・契約解除等について説明し、同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者・家族の話を聞き支援に取り入れている。入居者の日常の様子や健康状態を毎月文書で家族へ報告している。又、面会時に近況を報告し、意見や相談を伺ったりしている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所管理者会議、ユニット会議を開催し、事業所の状況や入居者・スタッフの状況報告を行っている。話し合った意見等を検討し活かすように努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話や会議の中でスタッフの意見や希望を聞き活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、外部研修等の機会を設けている。研修参加時の資料や報告書を回覧し共有できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会主催の研修会や法人内外の学習会への参加や第六地区事業所の交流会に参加し、意見交換を図る等、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と事前面接を行い、生活歴や心身の状況やニーズを把握出来るよう努め、不安を少しでも取り除いて入所できるよう配慮している。申し送り・記録・ユニット会議等でスタッフ全員が情報共有出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に、希望・要望を記入して頂いたり、事前面接時に同席して頂き、本人の状況やニーズを把握し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族からの相談に対して、サービスの提案を行っている。又、必要に応じてデイケアの利用や福祉用具の使用等、入居者や家族のニーズに合わせて対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能保持の為、出来る事はスタッフ見守りの元、自分でして頂けるよう努めている。人生の先輩からの生活の知恵や助言を頂き、尊重しながら共に穏やかな生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で本人の状況を報告したり、一か月の様子を文書や写真で伝えている。行事への家族参加を促し、入居者と一緒に楽しい時間を過ごせるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親族・友人の方が気軽に気楽に面会出来るようスタッフ一同対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士トラブルがないように席替えを実施したり、スタッフが間に入り関係構築に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人の様子を伺ったり、家族の相談にのるよう努めている。立ち寄りやすい雰囲気づくりも心掛けています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話・行動・表情から思いを把握し、支援出来るよう努めている。困難な場合は家族から情報提供して頂き本人本位となるよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面接で生活歴・生活スタイル・趣味・サービスの利用状況等を聞き取り、情報把握に努めている。又、いつでもスタッフが確認・把握出来るよう個人ファイルに記載されている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握する為、申し送り・行動記録等に残し、スタッフ間で共有出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ユニット会議にてカンファレンスを行い、ニーズや支援の方針を考え、それに基づきケアプランを作成している。派遣スタッフも意見を言える体制づくりに努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に小さな事柄でも記入し、入居者の日々の様子をスタッフ全員で共有し、ケアカンファレンスを行い、支援に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地区の中学校より車椅子を寄贈され、学校行事に参加し交流が出来る。買い物外出等で近隣の商店を利用している。			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族の希望するかかりつけ医が第一になっており、往診を受けている方もいる。定期的に医療機関を受診し、状態変化があれば、早急に主治医・家族と相談し対応を行っている。			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらゆる情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職員には入居者について気付いた事を常に報告し、対応している。夜間や休日は電話にて報告・連絡・相談し、指示を受け対応している。			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	管理者や看護職員がお見舞いに行き、状況を聞いたり、家族と情報交換を行い、退院出来るよう支援している。			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	終末期ケアは現在対応していないが、早い段階で本人・家族の希望を伺い、最善の支援が出来るよう努めている。又、対応困難な事やスタッフの不安を家族に伝え現状を理解してもらえよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法やAEDの講習を受講し、緊急時の対応に備えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。避難誘導の方法・経路の確認・消化器の取り扱い等の訓練を行っている。運営推進会議で町内会代表・民生委員の方々に訓練実施状況を報告したり、お互い協力が得られるよう努めている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に合った声掛けや対応をし、自尊心を傷つけることのないよう心掛けている。時には距離を取って見守りで対応している。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人から食べたい物を選んで頂いたり、選択の機会を提供し、自己決定出来るよう努めている。基本、入居者の希望を第一に考え対応している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者の行動は、本人のペースに合わせて過ごして頂き、希望にそって支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室を利用したり、好みに合ったその人らしい服装が出来るよう支援している。居室からリビングに来る時、髪型や洋服が乱れていれば整えるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とり・菊ちらしを手伝って頂いたり、テーブル拭き・食器拭きを行って頂いている。季節の食材を提供し、美味しく・楽しめる食事が出来るよう支援している。個々の能力を見極め下膳もして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェック表を活用し、把握できるよう努めている。咀嚼・嚥下の状態に合わせて食事形態を変え支援している。水分摂取量が少ない方には、チェック表を作り、一日分の水分が確保で出来るよう声掛け支援している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回声掛け・誘導を行ったり、介助にて口腔ケアを行っている。義歯の方は、就寝前に洗浄消毒を行っている。また、訪問診療に来て頂いているクリニックの歯科衛生士、歯科医より、月1度指導頂き全職員が把握するように努めています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄を把握している。定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。個々な合わせたオムツやパットを検討し、使用して頂いている。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の入居者は、毎日排便チェックし、看護職員へ相談し、下剤調整や洗腸等を行い、排便コントロールを行っている。牛乳やヨーグルト、食事の工夫、腹部マッサージ、水分摂取等で自然排便が出来るよう支援している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間や順番等は、一人ひとりの希望に添えるよう配慮している。状態に合わせてシャワーチェアを活用したり、必要に応じてスタッフ2人介助で対応し、安全に入浴出来るよう支援している。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、日中の活動を促し、夜間良眠出来るように支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報書を整理して入れており、いつでも確認出来るようにしている。薬の準備はスタッフ2名でダブルチェックを行い、服薬時は氏名・日付を声出し確認している。薬の変更時は連絡帳に記入し、スタッフ全員が把握出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の水かけ・洗濯物畳み・布巾干し等、役割として定着し、やりがいを持って生活して頂けるよう支援している。外食やドライブ等声掛けし、楽しめるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブに出掛けたり、家族との外出を支援し、気軽に出掛けられるよう努めている。バスレク等で家族の外出・会食を楽しむことが出来るよう支援している。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望した場合、所持金から支払えるよう支援している。自己管理出来る入居者には所持して頂き、自己管理が出来ない入居者でも小銭だけでも安心する方がいるので、小銭だけ所持して頂いている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者がいたり、所持していない方でも家族の声が聞きたい時には、スタッフが電話をかけ話して頂いている。家族・親戚に年賀状を書いて送れるよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、季節の花を飾ったり、季節の壁面装飾をしたりして季節感を取り入れている。ユニット内の清掃・片付け等、気持ち良く生活出来るよう支援している。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士を隣の席したり、ソファを配置し、ひとりになれる空間を作り心掛けている。居室は内は過ごしやすいスペースになるよう配置を考え工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具・家族写真・ピアノ・畳等を置き安心して生活出来るよう配慮している。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の立場で考え、使いやすいかどうか、安全かどうか考えながら環境づくりをしている。			